



神奈川県

平成 28・29 年度研究

〈高等学校〉

育成すべき資質・能力を育む

学びの在り方に関する研究

授業実践事例集

神奈川県立総合教育センター

はじめに

平成 29 年 3 月、文部科学省では、学習指導要領等の枠組みを大きく見直し、幼稚園教育要領、小学校学習指導要領、中学校学習指導要領を改訂しました。その中で、未来を生きる子どもたちが、よりよい社会の創り手となるために、どのような「資質・能力」を育てていくのか、学校は育成を目指す生徒像を明確にすることが求められています。

先頃、高等学校学習指導要領の改訂案が公表されました。改訂案では、「資質・能力」を育成するために「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の重要性が示され、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、物事をより深く探究、考察し、思いや考えをより良く表現、創造する過程について、学びを充実させることが求められています。

今回、作成いたしましたこの研究成果物は、大きく変わる学びの在り方について教職員が理解を深めることができるよう、研究の成果をまとめたものです。本冊子が、よりよい授業づくりの参考として、御活用いただけましたら幸いです。

平成 30 年 3 月

神奈川県立総合教育センター
所 長 北 村 公 一

目次

本冊子の目的と構成	1
第1章 資質・能力とは	
1 資質・能力の捉え方	2
2 教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力	2
3 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力	2
4 育成を目指す資質・能力の三つの柱	3
第2章 「主体的・対話的で深い学び」とは	
1 「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」の関係性	4
2 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」	5
第3章 授業実践例	
1 授業実践例 目次&ダイジェスト	6
2 授業実践例の構成（各項目の解説）	8
授業実践例1～授業実践例6	10
授業構想ノート	22
第4章 授業実践のまとめ、考えるヒント	
1 授業実践のまとめ	24
2 授業改善に向けたチェックシート	26
引用文献・参考文献、作成関係者	27

本冊子の目的と構成

○本冊子の目的

本冊子は、「育成すべき資質・能力を育む学びの在り方に関する研究」において検証された、6つの授業実践例をまとめたものです。

各学校で「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業改善を推進するためのヒントとなるように作成しました。

○本冊子の構成

第1章 資質・能力とは

第2章 「主体的・対話的で深い学び」とは

*中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」（以下、「答申」という）を基に、国の方針を整理しました

「理論編」

根拠を知りたい人は
コチラ

第3章 授業実践例

授業実践例 目次&ダイジェスト

授業実践例の構成（各項目の解説）

*P.10~21に6つの授業実践例を掲載しました

「実践編」

単元計画を知りたい
人はコチラ

第4章 授業実践のまとめ、考えるヒント

*2年間の研究成果をまとめました

「まとめ編」

研究のまとめを知り
たい人はコチラ

第1章 資質・能力とは

1 資質・能力の捉え方

従来の学習内容だけではなく、それを学ぶことで「何ができるようになるか」という視点で、学校教育目標やグランドデザインの下、3年間で目指す生徒像から、資質・能力を考えていくとよいでしょう。

その際、学校の教育課程全体の中で、育成を目指す資質・能力について教職員が理解を共有することが大切です。資質・能力は教科等横断的な力に共通する要素で、その具体化に向けては、学校全体で育みたい資質・能力を目標として、各教科のどの場面でのような資質・能力を育むかを体系的に整理することが大切です。

2 教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力

私たちは生涯にわたって学び続け、その成果を人生や社会の在り方に反映していきます。そうした学びの本質を踏まえ、学習の基盤を支えるために必要な力とは何かを、教科等を越えた視点で捉え、育てていくことが重要となります。教育課程全体を見渡して組織的に取り組み、確実に育てていくことができるようにしましょう。

(例) 言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力

3 現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力

変化の激しい社会において、様々な課題に直面したとき、それに主体的に向き合い解決していく資質・能力が必要です。現代と未来で直面する様々な課題に対応できるように、子どもの置かれた環境や地域の実情を踏まえつつ、次のような力を育成することが必要となります。

(例) ・健康・安全・食に関する力

・主権者として求められる力

・新たな価値を生み出す豊かな創造性

・グローバル化の中で多様性を尊重するとともに、現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し、伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する力

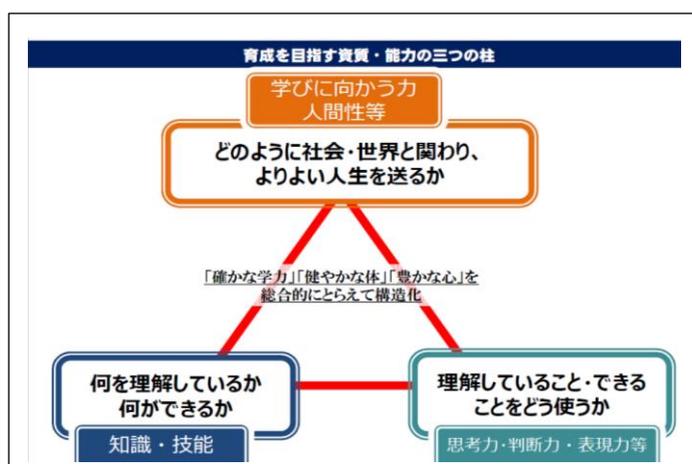
・地域や社会における産業の役割を理解し地域創生等に生かす力

・自然環境や資源の有限性等の中で持続可能な社会をつくる力

・豊かなスポーツライフを実現する力

こうした資質・能力を学校教育目標に位置付け、教育課程全体の中で、体系的に育成していくことが重要です。

4 育成を目指す資質・能力の三つの柱



次期学習指導要領等に関するこれまでの審議のまとめ補足資料より

知・徳・体にわたる「生きる力」を子どもたちに育むため、「何のために学ぶか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を引き出していけるよう、全ての教科等を、

- ①知識及び技能
 - ②思考力、判断力、表現力等
 - ③学びに向かう力、人間性等
- の三つの柱で再整理しています。

① 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く『知識・技能』の習得）」

各教科等において習得する知識や技能は、個別の事実的な知識のみを指すものではなく、それらが相互に関連付けられ、さらに社会の中で生きて働く知識となるものを含みます。基礎的・基本的な知識を着実に習得しながら、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりすることで、学習内容(特に主要な概念に関するもの)の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる概念としていくことが重要となります。技能についても同様のことがいえるでしょう。

② 「理解していること・できることをどう使うか

(未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成)」

将来の予測が困難な社会の中でも、未来を切り拓いていくために必要な、思考力・判断力・表現力等のことです。思考・判断・表現の過程には、大きく分類して以下の三つがあると考えられています。

- ・物事の中から問題を見だし、解決の方向を決定し、結果を予測しながら実行・振り返りを行い、次の問題発見・解決につなげていく過程
- ・自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成する過程
- ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

③ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

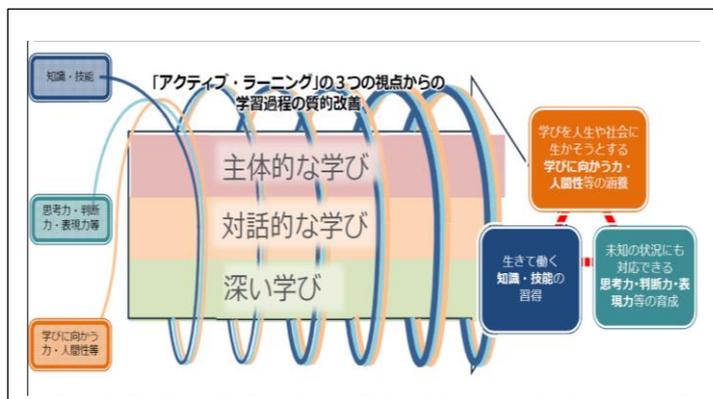
(学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養)」

前述の①及び②の資質・能力を、どのような方向性で働かせていくかを決定付ける重要な要素であり、情意や態度等に関わるものが含まれます。体験活動も含め、社会や世界との関わりの中で、学んだことの意義を実感できるような学習活動を充実させていくことが重要であるといえるでしょう。

参考：中央教育審議会2016「答申」P.27～31

第2章 「主体的・対話的で深い学び」とは

1 「資質・能力」と「主体的・対話的で深い学び」の関係性



次期学習指導要領等に関するこれまでの審議のまとめ補足資料より

資質・能力の三つの柱の育成を実現する上で、その軸となるのが「主体的・対話的で深い学び」による授業改善であるといわれています。

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点はそれぞれ相互に影響し合うものですが、授業改善の視点としては、次に示すように固有の視点があるので注意しましょう。

- ① 「学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる『**主体的な学び**』が実現できているか。」
☞ 生徒が学びに興味や関心を持ち、見通しを持って取り組むとともに、自己の学習活動を振り返り、次の学習につなげることが大切です。
- ② 「子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める『**対話的な学び**』が実現できているか。」
☞ 他者と考えを交流しながら、自分の考えを広げ深める学びです。生徒同士や教師、地域の人々との対話だけでなく、読書を通じて筆者の思いや考えを知ることも対話といえます。また、対話には意見交換や議論も含まれます。
- ③ 「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『**見方・考え方**』を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう『**深い学び**』が実現できているか。」
☞ 「深い学び」は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる学びです。知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりする過程で、各教科等の「見方・考え方」を働かせるような学びを指します。

参考：中央教育審議会2016「答申」P.49～50

2 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」

「答申」では、学びの「深まり」の鍵となるのが、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」であり、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方と記されています。「見方・考え方」を働かせることは、高校在学中はもちろん、卒業後でも幅広く活用することができます。そのためには、各教科等をなぜ学ぶのか、それを通じてどのような力がつくのかという、各教科等を学ぶ本質的な意義を明らかにする必要があります。

各教科等の特質に応じた見方・考え方のイメージ

言葉による見方・考え方	自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。
社会的事象の歴史的な見方・考え方	社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること。
現代社会の見方・考え方	社会的事象を、政治、法、経済などに関わる多様な視点（概念や理論など）に着目して捉え、よりよい社会の構築に向けて、課題解決のための選択・判断に資する概念や理論などと関連付けること。
数学的な見方・考え方	事象を、数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること。
理科の見方・考え方	自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなどの科学的に探究する方法を用いて考えること。
音楽的な見方・考え方	音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること。
造形的な見方・考え方	感性や想像力を働かせ、対象や事象を、造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくりだすこと。
体育の見方・考え方	運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた『する・みる・支える・知る』の多様な関わり方と関連付けること。
生活の営みに係る見方・考え方	家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。
外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、目的・場面・状況等に応じて、情報や自分の考えなどを形成、整理、再構築すること。

中央教育審議会 2016「答申」別紙1より一部抜粋

第3章 授業実践例

育成を目指す資質・能力を「単元で身に付けさせたい力」として、その力を身に付けるための学びの工夫と、その後の生徒の変容(何ができるようになるかの検証)を一覧にしました。

1 授業実践例 目次&ダイジェスト

	単元で身に付けさせたい力	どのように学ぶか (学習過程・指導) の工夫	何ができるようになるか (資質・能力の育成)の検証
一授業実践例 1— 理科 生物 一単元名— 刺激に対する反応 10 ページ	刺激に対する反応について多面的な視点で捉え、知識を蓄積するとともに、課題を見つけて、結果を処理しようとする力。	既習の知識や実験の技能をいかし、実験の手立てを考えることを通して主体的に取り組み、様々な視点から考える。	既習の知識や技能を用いて、実験の手立てを考えることができた。実験の成功・失敗にかかわらず、結果について事前に共有した他の班の意見を踏まえて、様々な視点から考察し、検証することができた。
一授業実践例 2— 外国語 コミュニケーション英語Ⅰ 一単元名— バイオミメティクス 12 ページ	英文を読み、自然界から科学技術のヒントを見付け、その工学的応用について、自分の考えを英語で話す力。	バイオミメティクスについて書かれた英文を読むために必要な、知識を身に付け、主体的に読むとともに、読んで得た知識を基に、新しい道具を考えて英語で表現する。	バイオミメティクスによる発明の発表では、自分の考えを英語で話すことができた。授業後のアンケートから、97%の生徒が授業を通して考えを深めたと回答した。英文を主体的に読み実生活にいかす考えを持ち、英語で表現する力が育成されたことが分かる振り返りが見られた。
一授業実践例 3— 外国語 英語表現Ⅰ 一単元名— 動名詞 14 ページ	動名詞の働きを理解し、互いに協力しながら「話す」「書く」ことで、情報や考えなどを英語で表現する力。	学び合いにより理解を深め、習得した文法や構文の知識が、場面に合わせてどのように使えるかをグループで考え、会話文を作成し、発表することを通じて、主体的に英文を書くことや話すことに取り組む。	習った知識をいかして、どのように使うかを考えさせることにより、学習内容についての理解が深まった。他者と考えを伝え合いながら会話を作り上げていく場面や、人前で会話を行い、英語を話す場面を設定することで、英語を使う力を発揮させることができ、「より上手に発表したい」と生徒の意欲につながった。

	単元で身に付けさせたい力	どのように学ぶか (学習過程・指導) の工夫	何ができるようになるか (資質・能力の育成)の検証
<p>—授業実践例 4— 家庭 家庭基礎</p> <p>—単元名— 住生活をつくる</p> <p>16 ページ</p>	<p>健康・快適・安全な住環境について考えを深め、実生活の充実・向上を図る力。 防災の視点を持ち、災害が身近に起こるものと意識した備えを、心掛けられるようにする力。</p>	<p>生徒が製作したインテリアスクラップを用いて、快適な住まいについてペアワークにより考えを深め、地震時の映像を見て、地震に対する改善策や備えに気付かせる。</p>	<p>健康・快適・安全な住環境について考えを深めたことは、インテリアスクラップブックを用いた学習活動やワークシートの記述内容で見取ることができた。 実生活の地震対策を見直し、家族の安全にも配慮する振り返りが見られた。</p>
<p>—授業実践例 5— 外国語 コミュニケーション英語Ⅱ</p> <p>—単元名— Lesson4 Chanel's Style</p> <p>18 ページ</p>	<p>英文を理解した上で、既存の価値観に捉われない視点を持ち、自分の考えを形成・整理し、英語を活用する力。ペアワークによる自己表現活動を通して、考えた内容を英語で表現する力。</p>	<p>チャンネルについて書かれた英文を、ペアでリプロダクションしながら読み、理解する。 既存の価値観に捉われず、創造することについて、ペアワークにより発明品を考え、英語で表現する。</p>	<p>英文を理解した上で、既存の価値観に捉われない視点を持ち、自分の考えを形成・整理する力については、ペアで協力して行った発表や提出した作品により評価することができた。ペアで考えた内容を英語で表現する力については、自己表現活動の取組の観察や発表、提出した作品、生徒の振り返りにより見取ることができた。</p>
<p>—授業実践例 6— 外国語 英語表現Ⅱ</p> <p>—単元名— パラグラフを書く 比較・対照</p> <p>20 ページ</p>	<p>比較することを通して、相違点や類似点を検証し、英語意見文で自分の主張と論拠を書く力。 対話を通して自分の主張を相手に説明し、積極的な良い聞き手として質問し、話し手の考えを図式化し整理する力。 自分の主張と論拠を定型表現に当てはめ、英語意見文の構想を練る力。</p>	<p>対話を通して、英語意見文の構想を練る手法を学ぶ。 知識や得た情報を活用して自分の意見を形成し、対話を通して整理し、英語意見文の形式で再構築する力を育成する。作文テストで学びを総括する。</p>	<p>比較することを通して、相違点や類似点を検証し、自分の主張を挙げることができる力については、授業後のアンケートにより見取ることができた。 対話において、良い聞き手・良い話し手となるために考えを整理する力に関しては、ペアワークでの取組の観察、ワークシートの記述内容から見取ることができた。 定型表現に当てはめ、自分の主張の論理性と説得力を検証する手法を獲得し、提出課題や作文テストで見取ることができた。</p>

2 授業実践例の構成(各項目の解説)

次のような形式で、見開きで一つの授業実践例を掲載しています。

○単元で身に付けさせたい力

単元で身に付けさせたい力を簡潔にまとめてあります。

同一科目の担当者間で、単元で身に付けさせたい力を確認し、同じ目的を持って授業に取り組みましょう。

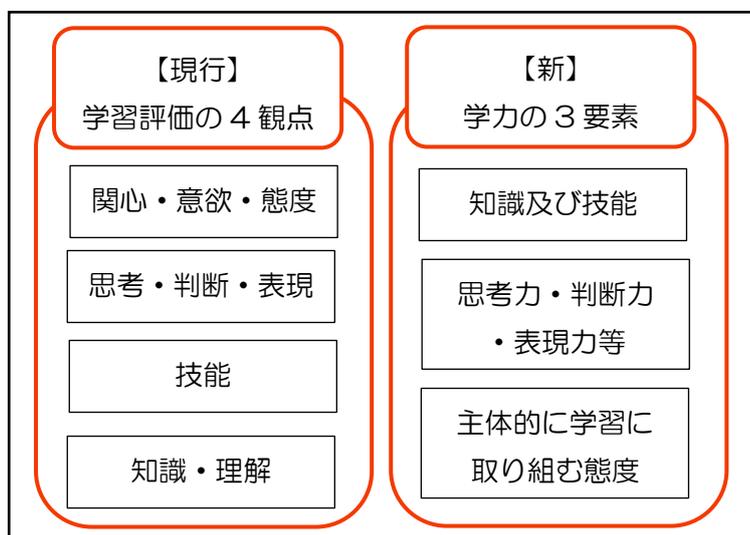
○本実践における「深い学び」 ⇨ 平成 28 年度の授業実践…授業実践例 1～3

○各教科の「見方・考え方」を働かせた本実践における「深い学び」

⇨ 平成 29 年度の授業実践…授業実践例 4～6

「深い学び」をどのように意識して、授業を構想したかを記してあります。

○単元の評価規準



本冊子の授業実践では、現行の学習指導要領に即して、評価規準を設定しています。

新学習指導要領では、どの教科・科目でも、評価規準の観点は以下の三つになります。

【知識及び技能】

【思考力・判断力・表現力等】

【主体的に学習に取り組む態度】

○単元の指導と評価の計画

学習指導案を作成する際、単元全体の計画が重要になります。1 単位時間の授業の展開も大切ですが、単元で身に付けさせたい力を育成するために、何をどのように学ぶかについて指導上の留意点とともにまとめ、評価する観点や評価方法も計画します。

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
			a	b	c	d
—						
—						
—						
太枠内については次頁に「第■時の授業展開」として詳細を載せました。						

○「深い学び」を実現するための事前整理

授業を構想するに当たり、次の三つを整理しました。

【単元観】一本単元の特徴ー

本単元のどのような学習内容が、生徒たちに求められている資質・能力の育成につながると捉えているか。

【生徒観】一生徒の学力や学習状況の実態ー

これまでの学習で身に付いている力と、本単元で身に付けさせたい力は何か。

【指導観】ー深い学びのイメージー

本単元で生徒が深く学ぶということ、どのようにイメージして学習過程や指導を工夫したか。

○第■時の授業展開…「深い学び」を意識した授業実践の本時の展開

【本時のねらい】

・単元計画で、単元で身に付けさせたい力を決めてから、1時間の授業のねらい（目標）を立てています。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入		
展開		
まとめ		



Point

「深い学び」に着目した学習活動のポイントを、吹き出しで載せました。

○生徒の記述から…授業後の生徒の振り返りを記載しました。

【まとめ】授業実践後の気づきをまとめました。

「資質・能力」と「カリキュラム・マネジメント」の関係

学校教育目標やグランドデザインの下、どのような「資質・能力」を身に付けた生徒を育みたいのか、3年間で目指す生徒像を学校全体で共有します。その「資質・能力」を育むために、年間指導計画での目標、単元計画での単元で身に付けさせたい力、毎時間の授業でのねらいや目標が必要となります。

生徒や地域の現状を踏まえて、学校教育目標を実現するために、教育課程を編成、実施・評価し改善していくことが「カリキュラム・マネジメント」であるといわれています。「カリキュラム・マネジメント」の三つの側面として、次の内容が挙げられます。

- ①教科等横断的な視点で、目標達成に必要な教育の内容を組織的に配列していくこと。
- ②教育内容の質の向上に向け、教育課程を編成しPDCAサイクルを確立すること。
- ③教育内容、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用すること。

3年間で目指す生徒像

年間指導計画

単元計画

本時の授業

授業実践例 1

対象生徒 2学年
 教科・科目 理科・生物
 単元名 刺激に対する反応

○単元で身に付けさせたい力

刺激に対する反応について多角的な視点で捉え、知識を蓄積するとともに、自分で課題を見付け、結果を処理しようとする力。

○本実践における「深い学び」

これまでに習得した実験の技能と、酵素の働きなど他の単元の学習で得た知識を使って、自分たちで実験の手立てを考えることを通して、実験と結果の検証に主体的に取り組み、刺激に対する生物の反応について様々な視点から考える。

○単元の評価規準

関心・意欲・態度(a)	思考・判断・表現(b)	観察・実験の技能(c)	知識・理解(d)
反応の仕組みに興味を持ち、意欲的に探究しようとしている。	反応の仕組みについて考えることができ、導き出した考えを的確に表現している。	実験の基本操作を習得し、設定した課題を探究する技能を身に付けている。	刺激に対する反応における神経系・効果器の仕組みを理解している。

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
			a	b	c	d
1 3	筋肉の構造、各部の名称や筋収縮の仕組みについて学ぶ。 筋収縮とエネルギーとの関係や筋肉以外の効果器について考える。	筋肉、体の構造を理解させる。 筋収縮とエネルギーの関係、筋肉疲労等の関係に気付かせる。 筋肉以外の効果器について考察させる。		○		○
4	発光器官(効果器)の理解を深めるための実験に向けた準備をし、自己課題を設定する。	実験の手立てを自分たちで考え、設定させることにより、深い理解につなげる。	○	○		
5	発光の実験を行う。 自己課題を検証する。	自分たちで設定した課題の検証を行わせる。	○		○	
6	各班の実験結果を踏まえて、考察をまとめる。	実験結果を検証させ、結果の処理を行う力を養う。	○	○		

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

刺激に対する効果器の反応（主に筋肉の動き）は日常的に我々が行っている生命現象であり、身近な分野である。自分たちの体のメカニズムがどのようになっているかを理解し、実生活に即して考察できる。

【生徒観】

積極的に生物を選択したとは限らず、基礎力や表現力に個人差が大きい。これまで学習した内容と実験の手立てを結び付けて話し合わせることで、主体的に考える力を付ける。

【指導観】

現象を見て疑問を持ち、自分たちで実験を組み立て、実験を行って結果を考察する。この一連の過程で、自分たちで考える力、実験結果を検証する力を養う。

○第4時の授業展開

【本時のねらい】 実験を行う目的を理解し、適切に課題を設定し、実験の計画を立てる。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入 15分	ホタライト演示実験を見て、発光の仕組みをまとめる。	演示実験を行い、生徒の関心・意欲を高める。 演示で行ったことが自然界で行われていることや、ホタルの生息環境の確認をし、実験条件に対する気づきを促す。
展開 25分	ホワイトボードへの記入・調整を行いながら、班ごとに実験計画を話し合い、意見をまとめる。	机間指導を行いながら、適切に話し合いがなされているか確認する。 他の班と自分の班の実験計画を調整させ、クラスでの実験と考察を結び付ける。
まとめ 10分	次の実験への手立てのまとめと振り返りをする。	実験計画をまとめ、プリントを回収し、本時の振り返りを行う。



Point

* 演示実験で生徒の関心・意欲を高める！



Point

* 実験を決められた手順で行うのではなく、班員と対話をしながら実験方法を考える、逆転の発想！



Point

* ホワイトボードを利用し、それぞれの考えを可視化、共有化することで学びを深める。

【まとめ】これまで学習で身に付けた知識や実験の技能を使い、実験の手立てを考えさせることができた。
自分たちで手立てを考えることで、実験や結果の考察に、主体的に取り組ませることができた。

○生徒の記述から

- ・今まで学んできた知識を重ねて考えることで、見えてくるものがある。冷やすことで酵素の動きが止まるかもしれないという考えには、学んできたことをいかせてよかった。
- ・今まで、先生の説明をワークシートに穴埋めする等、受け身の姿勢だった。今回、自分で教科書を読み進めた上で、先生の話で理解を深め、実験では物事がなぜ起こるか発想する力が付いた。

授業実践例2

対象生徒 1 学年
 教科・科目 外国語・コミュニケーション英語 I
 単元名 バイオミメティクス

○単元で身に付けさせたい力

英文を読み、自然界から科学技術のヒントを見付け、その工学的応用について、自分の考えを英語で話す力。

○本実践における「深い学び」

バイオミメティクス（生物から学ぶことで生まれた製品など）について書かれた英文を読むために必要な知識を身に付けながら、内容に関心を持って主体的に読むとともに、読んで得た知識を基に、社会の人々の役に立つ発明を考え、英語で発表する。

○単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度(a)	外国語表現の能力(b)	外国語理解の能力(c)	言語や文化についての知識・理解(d)
ペアで協力し、推測して読み進めている。グループ内発表で相手に確認したり、繰り返しや説明を求めたりしながら聞いている。	自然界から科学技術のヒントを見付け、その工学的応用について自分の考えを英語で適切に話すことができる。	英文を読んで、バイオミメティクスの例を理解している。	現在完了進行形、関係副詞、形式目的語 it についての知識を身に付けている。

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
			a	b	c	d
1	〔読む前活動〕バイオミメティクスを知り、自分の好きな生物とその特徴を考える。	内容への興味を高め、学習の見通しを持たせるため、生物担当教員によるバイオミメティクスの説明を行う。			○	
2 3 5	〔読む活動〕内容の読解、文法等について学び、ペアで本文の再話活動(リテリング)を行う。	本文の内容をおおまかに理解させ、次に文法の知識を確認し、更に内容を詳しく理解させる。	○		○	○
6	〔読んだ後活動〕グループ内で自分のバイオミメティクスのアイデアを発表する。	読んだ知識を活用させて、理解を深め、発表させる。	○	○		

Point * 教科等横断による動機付けを行う。

Point * 生徒が文章に主体的に向き合って読むことを深い学びと捉えた、読解の工夫を示す。
 〔読む前活動 Pre-reading〕 読解の動機付け。必要な言語知識を与え、文章の主題を考える。
 〔読む活動 While-reading〕 個々に読解し、考えを深める。
 〔読んだ後活動 Post-reading〕 読解によって得た知識を活用し、自分の考えを発信する。

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

生活をより良くするためのものづくりについて考えさせる。英文を読んだ後、グループ内で自分のバイオミメティクスのアイデアを英語で発表する。他の人間や新しい社会の姿を見据えてアイデアを出すことで、世界との関わりや社会貢献といった、より大きな目的に向かって自分の考えを生み出していこうとする態度を養うことができる。

【生徒観】

読解から得た知識をいかして、自分の考えなどを英語で表現する活動は8単元目で、生徒は学習の見通しを持って取り組んでいる。これまではペアでの共有や、代表者による発表が多かったが、本単元ではグループ内で全員が個人発表する場を設定した。他者を尊重しながら対話を図る方法を学び、身に付いたコミュニケーション能力を自己評価で振り返らせたい。

【指導観】

読んで知ろうとすること自体に深い学びがある。「読む前活動」により、英文を読むことへの動機付けと、「読んだ後活動」を含む学習への見通しを持たせることで、読解はより深い学びとなる。また、知ったことを周りとは共有する活動では、読解の深まりを確認し合うことができる。

○第6時の授業展開

【本時のねらい】 既存の知識を活用し、自然界に隠された科学技術のヒントについて、自分の考えを英語で伝える。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入 10分	〈本文の内容理解の確認〉 ペアで本文の再話に取り組む。 (内容を本文と異なる表現で、英語で適切に伝える。)	ペアで協力させる。
展開 20分	〈理解した知識の活用〉 グループ内でバイオミメティクスのアイデアを発表し、自己評価をする。発表者は絵を提示して分かりやすく話し、聞き手は確認したり質問しながら聞く。	発表者、聞き手、それぞれの評価の観点を意識して、グループ活動に取り組めるようにする。
まとめ 20分	〈単元のまとめ〉 選ばれた生徒がクラスで発表し、クラス全体で考えを共有する。	単元の学習を振り返らせ、できるようになったことを確認させる。



Point

*本文とは違う表現を用いることは学びの深まりとなる。



Point

*発表する際、発表者だけでなく、聞き手も重要。双方において自己評価する。

【まとめ】 アンケートや振り返りから、生徒自身が思考を深め、学びを実生活にいかし、英語で表現する姿を見取ることができた。特に、「プレゼンテーションやグループ活動の場面で、考えが深まった」という記述がアンケートに見られた。

○生徒の記述から

- リテリングで本文中の表現ではなく、自分で考えてストーリーを作った。
- 質問されて、自分では気付かなかったことが分かった。
- 自分と比較して他者の意見を理解することができた。



Point

*単元の振り返りを行うとよい。

授業実践例3

対象生徒 1 学年
 教科・科目 外国語・英語表現 I
 単元名 動名詞

○単元で身に付けさせたい力

動名詞の働きを理解し、互いに協力しながら「話す」「書く」ことで、情報や考えなどを英語で表現する力。

○本実践における深い学び

学び合いにより理解を深め習得した文法や構文の知識が、場面に合わせてどのように使えるかをグループで考えて会話文を作成し、発表することを通して、主体的に英文を書くことや話すことに取り組む。

○単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度(a)	外国語表現の能力(b)	言語や文化についての知識・理解(d)
グループ内で積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	動名詞を駆使し、「話す」「書く」ことで情報や考えなどを適切に伝えている。	英語の仕組みや言葉の意味、動名詞の働きや知識を身に付けている。

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点		
			a	b	d
1 5 4	動名詞について学ぶ。 演習や発表(スモールティーチャー)を行う。	知識を定着させるために、グループ内での言語活動を充実させる。	○		○
	 Point ＊スモールティーチャーとは…教員の文法事項の解説後、すぐに生徒がグループで教え合い、最後に生徒が全体に解説を行うという学習形態のこと。 グループで協力する力や、考えを説明する力が身に付く。				
5	慣用表現を身に付け、演習や英作文を書く。		○	○	
6	パフォーマンステスト※ グループで協力して動名詞を用いた会話文を作成し、発表する。	活動のねらいを明確に伝える。机間指導により必要に応じた支援を行う。 会話文について確認の解説を行う。	○	○	

※パフォーマンス評価をするためのテストという意味。

「パフォーマンス評価」とは、知識やスキルを使いこなす(活用・応用・統合する)ことを求めるような評価方法。論説文やレポート、展示物といった完成作品(プロダクト)や、スピーチやプレゼンテーション、協同での問題解決、実験の実施といった実演(狭義のパフォーマンス)を評価する。

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

グループ活動や作り上げたものを英語で発表することは、自分の考えを言葉で「発信」することや、既習事項を「使う」ことになり、主体的に粘り強く取り組む力や、他者と対話的に学ぶ姿勢の育成につながる。また、振り返りをさせることにより、新たな課題を見つけて取り組む力の育成につながる。

【生徒観】

学力に差があり、英語に対して苦手意識を持つ生徒もいる。スモールティーチャーによる学習形態を展開し、グループで協力する力や説明する力が身に付き始めている。グループでの協力を更に重視するとともに、英語で表現する力を身に付けさせたい。

【指導観】

見通しを持って学習に取り組むことができるよう、最初に本時の流れや目標を伝える。生徒一人ひとりが考えたことや感じたことを、他者に伝えることができる場面を作るためにグループワークを取り入れる。また、自己の活動を振り返り、課題を見付け、次につなげることができるよう、振り返りシートを活用する。

○第6時「パフォーマンステスト」の授業展開

【本時のねらい】 グループで協力し、動名詞を意識した会話文を作成する。発表の際は、発音等にも注意を払い、伝わるように工夫をする。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入 5分	本時の流れや目標を確認する。	本時の流れや目標を明確に伝える。
展開 25分	班で協力して会話文を作成し、ホワイトボードにまとめる。 他者の発表を聞き、相互に評価する。	文法や語句などの確認を行う。 班ごとの進み具合により、発音指導やジェスチャーなども教える。
まとめ 15分	振り返りシートで班や自分自身の取組について評価し、次回に向けた課題を考える。	各班の会話文を確認しながら、文法事項や重要語句などを振り返らせることで定着を図る。 本時の目標を再確認し、振り返りシートに取り組みやすいようにする。



Point

*会話文を作成する際は、日常生活での場面を基に、各班で選んで設定することにより、取り組みやすくする。



Point

*ホワイトボードで考えを可視化する。振り返りにも使用できる。



Point

*動名詞と会話に用いられた表現について解説を行い、知識の整理をする。

○生徒の記述から

- ・グループで単語や文法の意味を調べて英語の力が付いたし、互いに意見を出し合って交渉することができた。
- ・設定した場面に実際に出会ったときに、英文を考えることができる力を身に付けられた。

【まとめ】既習事項を活用して、他者と協力しながら会話を考えさせることができた。

人前で会話(発表)を行うという場面を設けたことで、英語を話し、活用する力を発揮させることができた。

授業実践例4

対象生徒 1 学年
 教科・科目 家庭・家庭基礎
 単元名 住生活をつくる

○単元で身に付けさせたい力

健康・快適・安全な住環境について考えを深め、実生活の充実・向上を図る力。特に防災の視点を持ち、災害が身近に起こるものと意識した備えを、心掛けられるようにする力。

○各教科の「見方・考え方」を働かせた本実践における「深い学び」

健康・快適・安全な住環境について考え、適切な住居の計画や選択ができるようにする。自分の住環境を見直し、家族や地域の人々の安全にも配慮でき、実生活でもいかせるように工夫する。

○単元の評価規準

関心・意欲・態度 (a)	思考・判断・表現(b)	技能(c)	知識・理解(d)
健康・快適・安全な住居や住環境について考えようとしている。	健康・快適・安全な住居について考えを深めることができ、まとめたことを表現することができる。	健康・快適・安全に配慮した室内整備や住環境について、情報を収集、整理し、活用することができる。	住居の機能、健康で快適な住居について理解している。安全に配慮した住環境や課題を認識し、対応する力を身に付けている。

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
			a	b	c	d
1 2	住居の機能を知り、気候風土による違いを話し合う。 住空間や持続可能な住環境を考える。健康に配慮した快適な室内環境について考える。	気候風土による世界の住宅の違いを、地理的条件に関する資料をヒントに考えるよう促す。 住空間や住環境の役割を、実生活を振り返りながら考えさせる。		○		○
3	平面図の見方を理解し、間取りを比較して違いを考える。 【宿題】理想の一人暮らしに必要なインテリアスクラップブックを作成する。	間取りを比較させ、ライフステージに応じて住居の機能等に相違があることを考えさせる。 【宿題】目的を理解させる。			○	○
4	各自作成したインテリアスクラップブックを用いてペアで比較・確認する。防災について考える。	自ら作成した作品をペアでプレゼンテーションし合い考えを深めさせ、防災対策を促す。	○	○		
5	防災食の実習を行い、災害時の備えを考える。	水・ガスを使わない実習を行い、必要な備えを考えさせる。	○	○		

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

本単元において、健康・快適な住環境を考えるだけでなく、防災の視点から安全で安心できる住環境づくりを考えることで、実生活においても住環境の充実・向上を図ることができる。

【生徒観】

今までもペアワーク等を通じてコミュニケーション能力を身に付けているが、発言したり、相手の意見を聞いてまとめたりすることが苦手な生徒も多い。本単元を通して、自分の考えを表現し、相手に伝えることで、再度自分の考えを見つめ直し、考えを深めていく。

【指導観】

自分で製作した作品を他者と比較し、ペアワークにおいて相手に説明することで、自分の考えを再度整理させ、気付きを促す。また、地震時の映像を見せ、生徒に必要な対策を考えさせることで、安全に住まうことを意識し、対応する力を身に付けさせる。

○第4時の授業展開

【本時のねらい】 快適な住居について考えを深め、防災など安全な住環境の課題について考え、備えを心掛けられるようにする。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入 5分	前時の復習と本時の学習活動の確認をする。	前時の学習の確認をし、本時の目標を生徒に示し、学習活動の確認をする。
展開 40分	インテリアスクラップブックを見て回る。 ペアになりお互いにプレゼンテーションし、疑問点等を質問し合う。 災害時の映像を見て、必要な防災対策を個人で考え、その後ペアで確認する。	見て回る時間やプレゼンテーションのタイムマネジメントを行う。 ペアワークで相手に説明することで、作品と向き合い、考えを深めさせる。地震時の映像を見ることで、スクラップブックに足りない安全面に気付かせ、防災対策を考えさせる。
まとめ 5分	本時の振り返りと次回の実習の確認をする。	本時の振り返りをさせ、次回の持ち物等を確認させる。

インテリアスクラップブックとは理想の一人暮らしを想定し、家具や家電の写真を貼り、選んだ理由や価格を書いたもの



Point

*タイムマネジメントのために、文字盤の大きいタイマーを活用する。個人で考える時間3分、共有する時間5分、と時間を区切りながらテンポよく進める。



Point

*個人で課題に取り組んだ後、ペアで意見を交換するなど、活動のねらいにより適切な学習形態を考える。

○生徒の記述から

- デザインや値段の問題もあるけど、一番大切なのは防災の意識を持つことだと思った。今、住んでいる家を見直したい。ベッドで寝ている時に物が落下してこないか、安全な環境で暮らしているのかを確認したい。
- 災害について対策をするのは当然のことだし、家族を守るために伝えたいと思う。自分だけでなく、他の人を守れるようになりたいと思えた。

【まとめ】学校の地域性や立地環境により、学校全体としての防災意識は高い。生徒の振り返りの中で、実生活の防災対策について改善点を見いだした生徒や、他者の安全を考慮する記述が見られた。

授業実践例5

対象生徒 2学年
 教科・科目 外国語・コミュニケーション英語Ⅱ
 単元名 Lesson4 Chanel's Style

○単元で身に付けさせたい力

英文を理解した上で、既存の価値観に捉われない視点を持ち、自分の考えを形成・整理し、英語を活用する力。ペアワークによる自己表現活動を通して、考えた内容を英語で表現する力。

○各教科の「見方・考え方」を働かせた本実践における「深い学び」

革新者と言われるココ・シャネルについて書かれた英文を読み、既存の価値観に捉われず創造することについて、ペアワークにより考えを形成し、自分たちで考えた発明品を英語で表現する。

○単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度(a)	外国語表現の能力(b)	外国語理解の能力(c)	言語や文化についての知識・理解(d)
ペアワークに意欲的に取り組んでいる。トピックに関心を持ち、ペアで意見交換をしている。	各自が考えた内容をペアで共有し、その内容を英語で適切に伝えることができる。	英文を読み、設問に取り組みながら、概要を理解することができる。	イディオムや新出語句の意味を理解し、運用することができる。

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点			
			a	b	c	d
1 6	〔Part1～2〕 ペアワークによる ・概要把握 ・文法理解	概要把握や文法理解にはペアワークを取り入れ、定着を図る。一人が日本語、もう一人が英語に直す際、通訳するようにリプロダクションさせる。英文の内容を簡単な英語にさせ、意見をシェアさせる。	○		○	○
7 12	〔Part3～4〕 ペアワークによる ・概要把握 ・文法理解 ・自己表現活動	ペアワークを取り入れて、英文の内容を理解させる。 自己表現活動では、ペアで発明品を考え、英語で表現させる。難しい表現は机間指導でヒントを与える。	○	○		○



Point

* 今回の自己表現活動は、発明品を考える取組だが、テーマを変えて、他の単元でも応用できる。
 また、個人ワークか、ペア・グループワークか、目的に応じて学習形態を変えるとよい。

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

ココ・チャンネルの「様々な知識を基に、既存の価値観に捉われない斬新な考えを形成し表現する」ことを学習する中で、得た知識を基にペアワークで協力しながら発明品を考え、英語で表現する。

【生徒観】

筆者の考えに対する自分の考えや意見を整理し、英語で表現することに取り組んできた。「既存の慣習や文化を多方面から見直し、問題を見つけて解決する」という視点から、ペアでコミュニケーションを取りながら協力し、表現する力を伸ばす。

【指導観】

英文で学んだ知識を基に自分の考えを持ち、ペアワークで互いに学び合うことで、考えを形成し、問題に対する解決策を見だし、共有することで考えを深めていく。

○第8時「自己表現活動」の授業展開

【本時のねらい】 ココ・チャンネルの発想や、物事を多面的に見る視点を学習した上で、他者と協力して発明品を考え、英語で表現すること。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入 10分	ペアになり一人が日本語、もう一人が英語で答え、イディオムや新出単語を覚える。	ペアを作らせ、日本語を聞いて通訳をする感覚で、丁寧に発音するように指導する。
展開 40分	分からない所はペアで協力し、本文を読解する。 〈自己表現活動〉 ①ペアで既存の物の問題点を見付け、その物に改善点を加えて発明品を考える。 ②発明品のイラストと紹介文を英語で書く。 ③クラスで発表する。	分からない所はペアで話し合いながら作業をするよう促す。答え合わせをする。 アイデアが出やすいように、全体を見ながら机間指導をする。分からないことは辞書を使うよう促すか、既習事項を活用できるように、ヒントを与える。
まとめ 5分	本時の振り返りをする。	「習慣に捉われない視点や発想」が大切であることを、再度伝える。



Point

*本時は最初から最後までペアで活動し、互いに学び合う姿が見られた。



Point

*本文の内容に沿った自己表現活動。教科書の文法や既習内容を活用し、表現していた。

【まとめ】

発明品を英語で表現することよりも、発明品を考えることに時間がかかっていたようだ。自己表現活動の時間は、十分にとる必要がある。生徒が既習事項を応用し、時間内にまとめようと学習に集中して、取り組む姿が見られた。

○生徒の記述から

- どうしたらその商品を詳しく英語で伝えられるかを工夫した。今回の授業で、視野を広げることが大切だと思った。
- 共同で知恵や意見をシェアできる。アイデアを出したり、間違いを指摘したり、助言したりできる。
- 相手の意見を聞いたり、自分の意見を言ったりすると、相手が自分の意見と違う考えを持っていることが分かり、おもしろいと思った。

授業実践例6

対象生徒 2学年
 教科・科目 外国語・英語表現Ⅱ
 単元名 パラグラフを書く 比較・対照

○単元で身に付けさせたい力

- ・比較することを通して、相違点や類似点を検証し、英語意見文で自分の主張と論拠を書く力。
- ・対話を通して自分の主張を相手に説明し、積極的な良い聞き手として質問し、話し手の考えを図式化し整理する力。
- ・自分の主張と論拠を定型表現に当てはめ、英語意見文の構想を練る力。

○各教科の「見方・考え方」を働かせた本実践における「深い学び」

対話を通して、英語意見文の構想を練る手法を学ぶ。知識や得た情報を活用して自分の意見を形成し、対話を通して整理し、英語意見文の形式で再構築する力を育成する。作文テストで学びを総括し、英語意見文を書く際に、繰り返し活用できる考え方を学ぶ。

○単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度(a)	外国語表現の能力(b)	言語や文化についての知識・理解(d)
自分の主張を、より論理的に他者に伝えるというコミュニケーションの場面を理解し、積極的に言語活動を行っている。	事実や意見などを多様な視点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、論理的で説得力のある英語意見文を書いている。	英語意見文の構想を練る手法についての知識を身に付けている。

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点		
			a	b	d
1	ペアになり都会と田舎の良いところを比較し、質問し合う。 (宿題) 英語意見文を書くための、自分の主張と論拠を挙げる。	主張を展開する際の複数の視点を考えさせる。 対話を通しアイデアを出させ、英語意見文の構想を練らせる。			○
2	ペアで主張と論拠を質問し合い相手の主張と論拠を図式化する。定型表現に自分の主張と論拠を当てはめて言い、その論理性を検証する。英語意見文を書き、提出する。 (宿題) 返却された英語意見文を、チェックリストを使い校正する。	ALT とのデモンストレーションを見せ、対話のイメージを与える。 定型表現を正確に使っているか、机間指導をしながら注意を払う。 論理的で説得力のある英語意見文を書かせる。	○		
3	作文テストを受ける。	ルーブリック評価を行う。		○	○

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

本単元では都会と田舎を比較し、どちらの生活がより良いかについての、主張を論理的に整理し、100語程度の英語意見文にまとめる手法を学ぶ。対話を通して複数の視点を知り、他者の意見を聞くことで、より説得力のある英語意見文を書くことができる。

【生徒観】

英語意見文の学習は、本単元で5単元目となり、生徒は英語意見文についてはおおむね理解している。都会と田舎を比較することをテーマに、説得力のある英語意見文を展開する力を身に付ける。

【指導観】

他者と話す、相手の考えを図式化する、定型表現に当てはめてみるなど、英語意見文を書くときに活用できる手法を学ぶことができる。授業の導入に教員が手法を教え、展開で生徒が練習し、まとめに生徒が学びを総括する。

 Point* 対話に重点を置く場合、話し手だけでなく聞き手に対する指導も重要である。相づちを打つ、分からない内容を質問するなど、良い聞き手の存在が対話において「深い学び」を実現させる鍵になる。

○第2時の授業展開

【本時のねらい】

対話を通して、英語意見文を書くための主張と論拠を整理し、定型表現に当てはめて言うことができる。

	学習内容、学習活動	指導上の留意点
導入 10分	英語意見文の構想を練る手法を確認する。ALTと授業者の対話の例示を聞き、学習活動を理解する。	本時の目標を明示して確認させる。自分の主張と論拠が挙げられていない生徒が活用できる例を示す。
展開 35分	ペアで対話し、相手の主張と論拠を図式化して、不明瞭なことは質問する。 自分の主張と論拠を英語意見文の定型表現に当てはめて言う。 英語意見文を書く。	活動内容を理解しているかの確認。対話が成立していないペアには、質問例を示す。全員が学習活動を理解しているか確認する。 定型表現を使えていない生徒には例を示す。 ルーブリック評価の基準を確認する。
まとめ 5分	本時の振り返り、アンケートに答え、宿題の確認をする。	本時の目標を達成することができたか確認させる。



Point

*ALTと授業者のデモンストレーションで対話のイメージを持たせる。



Point

*宿題で知識の定着を図り、作文テストに臨む。
*作文テストはルーブリック評価なので基準を確認する。

1

【まとめ】英語意見文を書く力は、単元の学習の積み重ねにより身に付いた。提出課題の記述内容から、自分の考えを形成・整理・再構築する力が育まれたと判断できる。

○生徒の記述から

- ゆっくり話して、伝わるように意識した。意見交換して共有することで考えが深まった。
- 対話により、自分の意見が深まり新しい発見ができて良かった。
- 英語で表現できることは、将来、外国人と意見交換するときや説明するとき、表現を知っているという点で役に立つ。

授業構想ノート

対象生徒	()
教科・科目	()
単元名	()

授業実践例 1～6の授業構想で使用した様式です。
 「深い学び」の実現を目指した授業実践の構想を練る際の、ノートとして御活用ください。

○単元で身に付けさせたい力

○各教科の「見方・考え方」を働かせた本実践における「深い学び」

○単元の評価規準

(a)	(b)	(c)	(d)	(e)

○単元の指導と評価の計画

時	学習内容 学習活動	指導上の留意点	評価の観点				
			a	b	c	d	e

○「深い学び」を実現するための事前整理

【単元観】

【生徒観】

【指導観】

○第 〇 時の授業展開

【本時のねらい】

	学習内容、学習活動	指導上の留意点

 Point
*学習内容・学習活動
…生徒を主語に記述し
ましょう。

 Point
*指導上の留意点…
教師を主語にして、
どこを工夫したかを
記述しましょう。

○自分自身の振り返り

第4章 授業実践のまとめ、考えるヒント

1 授業実践のまとめ

I 「深い学び」へと導く単元計画を立てる

- ① 「単元で身に付けさせたい力」を明確にする。
 - 「単元で身に付けさせたい力」については、同一科目を持つ担当者同士で、共通理解を図りましょう。
 - その力を身に付けさせるために、単元のどの時間で、何をどのように学ばせることが「深い学び」につながるかという視点で単元の学習内容と学習活動を検討しましょう。
 - 単元で身に付けさせたい力が身に付いている具体的な生徒の姿を、観点別に評価規準として設定します。単元の学習の中で、いつ、どのように評価するかについても、単元計画に明記すると良いでしょう。
- ② 単元観、生徒観、指導観を整理し、「深い学び」のイメージを作る。
 - 「どのような内容を(単元観)、どのような生徒が(生徒観)、どのように学ぶことでどのような力を付けるか(指導観)」を単元計画に盛り込むことで、「深い学び」をイメージしやすくなります。

II 「主体的な学び」のヒント

- ① 学習の見通しを持たせる
 - 毎時間の授業で、本時の目標を生徒に明示することにより、学習の見通しを持たせることが重要です。
 - 個人、ペア・グループワークにおいて、考えを深めたり、話し合いをしたり、作業をしたりする際は、今、何をすべきか、何をしなければならないのかの指示を明確にすることが大切です。言葉による指示だけではなく、板書やデモンストレーションなどにより、視覚にも働きかけると良いでしょう。
 - 生徒に授業の1時間の学習活動の流れなども知らせると、更に良いでしょう。
- ② 既習の知識・技術等を活用させる
 - 既習内容の知識・技術等が活用できると、学習に対して更なる意欲が持てるようになります。学んだ内容を、その授業だけにとどまらず、その後の授業等でも引き出せる授業を展開すると良いでしょう。また、生徒が既習の知識・技術等を活用できていない場合でも、教師はすぐに答えを教えるのではなく、ヒントを与えるなど、どのように問いを重ねると既習内容を引き出せるかについても考えておくと良いでしょう。

③ 実生活とのつながりを意識する

→なぜ学ぶのか、それを学んでどのような力が付くのか、その力はどのように生活と結び付き、どのような場面でいかすことができるのかなどのように、実生活と学びのつながりを意識させると良いでしょう。

④ 振り返りを行う

→生徒が自己の学習活動を振り返り、身に付いたことを自覚し、次の学習につなげられるようにすることも大切です。
→毎時間の振り返りや単元の終了時の振り返りなども効果的です。

III 「対話的な学び」のヒント

① 的確なタイムマネジメントを行う

～時間を確保する～

→個人で考えを深めさせたり、ペア・グループワークで活動させたりする際は、十分に時間を確保し、学びが深まるよう工夫することが大切です。時間が足りず、中途半端に終わってしまっただけでは、活動の目的が達成できないかもしれません。

また、活動するだけでなく、考えや意見を共有する時間や振り返りの機会を持つことで、更に学びは深まるでしょう。

→授業中の活動時間を確保するために、授業実践では、家庭学習(宿題等)を取り入れた事例がありました。具体的には、宿題として取り組ませたことを活用して授業を展開したり、授業で学んだ内容を宿題にして知識の定着を図ったりするなど、家庭学習を取り入れることで、授業中の活動時間を確保する工夫が見られました。

～時間を管理する～

→考える時間や話し合い、作業をする際は、終了時間を生徒に知らせるなど、見通しを持たせることが大切です。授業実践では、終了時間を板書したり、マグネット付きの大きいタイマーを黒板に貼りカウントダウンしたりすることで、生徒は時間内に意見をまとめたり、作業をしたりするなど、集中して学習に取り組む姿が見られました。

② 考えを可視化して交流する

→対話をしたり、意見交換をしたりする際は、考えを可視化できるツールが効果的です。ホワイトボードの活用や、考えをまとめる際に使用するワークシートやICTの利活用が有効です。可視化して発信・受信することで学びの深まりにつながります。

③ 聞く力を育成する

→発表やプレゼンテーションなど、考えをまとめ発信する力を身に付けさせるとともに、受信する側である聞き手の態度を育てることも重要です。しっかりと聞いて、聞き手が意見を言ったり質問をしたりすることで、学び合いの質が高まります。

④安心・安全な学習環境を設定する

→グループで話し合うことや、話し合っただけ考えをまとめる活動を行うためには、自分の考えを述べたり、人前で発表したりする学習活動に、安心して取り組むことができる学習環境の整備が必要です。生徒の学びの質を高めるためには、「どのように学ぶか」について、学校を安心・安全な学びの場とするという側面から、学校全体で取り組むことが大切です。

IV 「見方・考え方」を働かせた「深い学び」のヒント

①「主体的な学び」「対話的な学び」が「深い学び」へとつながる

→Ⅱ「主体的な学び」のヒント、Ⅲ「対話的な学び」のヒントは、「深い学び」のヒントにもなります。相互に関連し合うことで、主体的な学びが深い学びへ、対話的な学びが深い学びへとつながるでしょう。

②各教科等の「見方・考え方」を働かせる

→各教科等で物事を捉える視点や考え方が「見方・考え方」です。難しく考える必要はなく、各教科等を学ぶ意義に立ち戻り、その単元で何をどのように学ぶかを考えるヒントとして捉えると良いでしょう。

このチェックシートの項目が全てではありません。
この他にも必要な内容を整理して、学校内や教科内で共有し、授業改善に役立てましょう。

2 授業改善に向けたチェックシート

【授業前】

- 単元計画 身に付けさせたい力を設定する
 - 「深い学び」を実現するための事前整理（単元観、生徒観、指導観）をする
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業をイメージする
 - 評価規準を設定する

【授業中】

- 目標を提示する
- 的確な指示をする
- 的確なタイムマネジメントを行う
- 生徒の気付きや思考を促す工夫をする
- 対話の際の話し手と聞き手への指導を行う
- 考えを可視化するツールを利用する
- 安心、安全な学習環境づくりをする
- 振り返りをさせる

【授業後】

- 身に付けさせたい力の検証
 - 観点別で評価をする
 - 授業を振り返り、課題を把握し、次につなげる（PDCAサイクルの確立）

引用文献・参考文献、作成関係者

【引用文献】

中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_0.pdf (2018年1月取得)

中央教育審議会 2016「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」別紙

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/12/27/1380902_2.pdf (2018年1月取得)

【参考文献】

新教育課程実践研究会 2017『よくわかる 中教審「学習指導要領」答申のポイント』教育開発研究所

石井英真 2017『中教審「答申」を読み解く』日本標準

大杉昭英 2017『中央教育審議会答申 全文と読み解き解説』明治図書出版

【作成関係者】※所属及び職名は、研究に携わった最終年度のものです。

〈助言者〉

所属	職名	氏名	備考
國學院大學	教授	田村学	平成28・29年度

〈調査研究協力校及び調査研究協力員〉

所属	職名	氏名	備考
松陽高等学校	教諭	大石智子	平成28・29年度
七里ガ浜高等学校	教諭	中川崇寛	平成28年度
七里ガ浜高等学校	教諭	肥後麗子	平成29年度
麻溝台高等学校	教諭	弓削恵	平成28・29年度

〈神奈川県立総合教育センター〉

所属	職名	氏名	備考
教育課題研究課	指導主事	宮本利香	平成29年度
教育課題研究課	指導主事	中根賢	平成28・29年度
教育課題研究課	主幹(兼)指導主事	石井晴絵	平成28・29年度
教育課題研究課	教育指導専門員	稲本隆	平成28年度
教育課題研究課	教育指導専門員	児島義明	平成29年度

平成 28・29 年度研究 〈高等学校〉
育成すべき資質・能力を育む学びの在り方に関する研究
授業実践事例集

発 行 平成 30 年 3 月

発行者 北村公一

発行所 神奈川県立総合教育センター

〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1

電 話 (0466)81-1659 (教育課題研究課 直通)

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

※本冊子については、ホームページで閲覧できます。

再生紙を使用しています



神奈川県立総合教育センター
善行庁舎
〒251-0871 藤沢市善行 7-1-1
TEL (0466) 81-0188【代表】
FAX (0466) 84-2040

ホームページ <http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/>

亀井野庁舎（教育相談センター）
〒252-0813 藤沢市亀井野 2547-4
TEL (0466) 81-8521【代表】
FAX (0466) 83-4500

